

【公園編】



## ●公園分野における候補事例の収集

### (1) 候補事例選定の視点

- ・明治期にわが国に「公園」という概念が導入され、その後、時代の変化に伴い公園のあり方も変化し、それぞれの時代背景に即したかたちで様々な公園が生まれてきた。このような公園の変遷過程を踏まえ、その転換期における代表的な公園を対象とし、歴史的・文化的な価値を有し、優れたデザインにより形成された公園を選定した。
- ・公園については、広場の造成や、園路のルートなど公園全体に関わるデザインはもとより、休憩施設や修景施設など、公園としての機能を確保するために必要となる個々の施設について、工夫している点や景観・デザイン的に優れている点を中心に解説した。
- ・なお、公園分野における選定対象としては、公園のみならず、公的なオープンスペースである緑地や広場（駅前広場、緑道、ポケットパークなど）についてもその対象とした。

### (2) 規範候補（100 事例）の選定

#### ① 選定対象

- ・施設が現存する（復元されている）公園を対象とした。

#### ② 選定の方法

- ・選定に際しては、公園緑地等に関する事例等の標準的な図書である、下記資料に基づくことを基本とした。
- ・また、その他の優れたデザインとして評価が定まっている事例を抽出都する際の参考資料として、「日本の歴史公園 100 選」、「土木学会デザイン賞」等を併せて参照した。

## ■選定に用いた資料

1. 『建築設計資料集成（9.地域）』（日本建築学会）
2. 『造園ハンドブック』（日本造園学会）
3. 『日本の都市公園』（環境緑化新聞）
4. 『日本の都市公園 100 選』（公園緑地協会）
5. 『日本の近代土木遺産』（土木学会、2005 年）
6. 文化財（国・都道府県）
7. 専門家からの要請  
（ヒアリング、部会での発言等を参考）

重複する  
ものを抽出

全て抽出

### ③ 事例の分類

- ・選定した事例について、その特徴をより明確なものとし、候補の絞り込みを行う際の参考とするため、下記に示す観点に基づき分類を行った。

#### 【分類 1：立地特性等による分類】

- ・公園を取りまく周辺の状況、立地の特性、成立過程等に着目し、以下に示す項目による分類を行った。

##### 1) 空間活用分類

- ・地形活用型：傾斜地形、平坦水系
- ・歴史環境活用型：近世名所、史跡等活用、寺領・庭園等活用、周辺規制
- ・空間活用型：意図的跡地利用、空地転用
- ・一体整備共同型

##### 2) ネットワーク分類

- ・ネットワーク型：地形ネットワーク、空間ネットワーク
- ・分散配置型：均等配置、意図的配置

##### 3) その他広場等

- ・広場等
- ・交通広場等

## 【分類2：法制等による年代的な分類】

・公園の整備された時代背景に着目し、以下に示す法制等による分類を行った。

- 1)初期西洋式：明治初期、海外からの居留者の手による公園
- 2)太政官布達・市区改正等：我が国の初期の法制度に基づく公園
- 3)震災復興：関東大震災の復興を目的として整備された公園
- 4)戦災復興：戦後の復興時に整備された公園
- 5)都市計画法等：現代の法制度に基づき整備された、新しい公園等
- 6)区画整理・新住事業等：ニュータウン開発などに伴い整備された公園

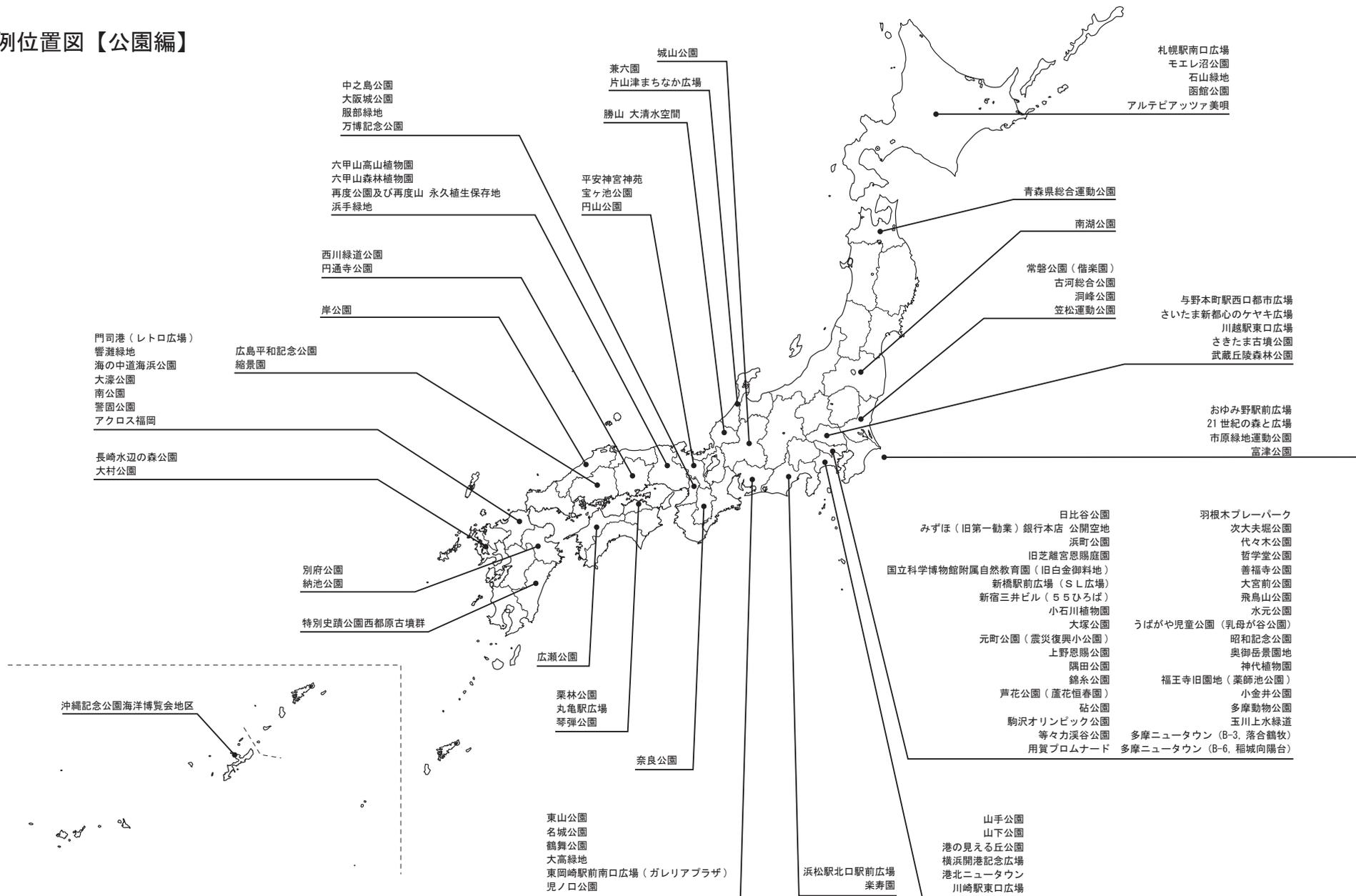
【公園分野】事例分類一覧 (太字: 景観デザイン規範事例の対象となる公園等、 : 1つのテーマでまとめて紹介する事例対象)

法制分類		立地分類		初期西洋式	太政官布達・市区改正等	震災復興	戦災復興	都市計画法等	区画整理・新住事業等
		地形	傾斜地形	函館公園	哲学堂公園、奥御岳景園地、六甲山高山植物園、六甲山森林植物園、再度公園	大塚公園	自然教育園、富津公園、南公園	武蔵丘陵森林公園、等々力溪谷公園、多摩動物公園	うばがや児童公園
空間活用分類	地形活用型	平坦水系		中之島公園			善福寺公園	21世紀の森と広場、次大夫堀公園、大宮前公園、玉川上水緑道、 <u>尻ノ口公園</u> 、西川緑道公園、響灘緑地、海の中道海浜公園、 <u>長崎水辺の森公園</u>	洞峰公園
		近世名所		<u>上野恩賜公園</u> 、飛鳥山公園					
	歴史環境活用型	史跡等活用		小石川植物園、芦花公園、名城公園、大阪城公園、大村公園、城山公園			広島平和記念公園	青森県総合運動公園、さきたま古墳公園、玉藻公園、 <u>西都原古墳群</u>	
		寺領・庭園等活用		南湖公園、常磐公園、平安神宮神苑、奈良公園、旧芝離宮恩賜庭園、琴弾公園、納池公園			楽寿園、縮景園	福王寺旧園地、円通寺公園、広瀬公園	
		周辺規制		兼六園、円山公園、栗林公園					
	空間活用型	意図的跡地利用		鶴舞公園、大濠公園				<u>モエレ沼公園</u> 、石山緑地、市原緑地運動公園、万博記念公園、浜手緑地、沖縄記念公園海洋博覧会地区	
		空地転用		日比谷公園			水元公園、代々木公園、 <u>砦公園</u> 、駒沢オリンピック公園、神代植物園、小金井公園、大高緑地、服部緑地	<u>古河総合公園</u> 、昭和記念公園、別府公園	
	一体整備共同型					<u>元町公園(震災復興小公園)</u>	東山公園	<u>アルテピアッツァ美唄</u> 、宝ヶ池公園、岸公園	
	ネットワーク分類	ネットワーク型	地形ネットワーク						<u>多摩 NT (B-6)</u>
			空間ネットワーク					<u>大清水空間</u>	<u>港北 NT</u>
分散配置型		均等配置				浜町公園、隅田公園、錦糸公園			<u>多摩 NT (B-3)</u>
	意図的配置	山手公園			山下公園	港の見える丘公園			
その他広場等		広場等	さいたま新都心のケヤキ広場、旧第一勧業銀行本店 公開空地、新宿三井ビル(55ひろば)、用賀プロムナード、横浜開港記念広場、アクロス福岡、片山津まちなか広場						
		交通広場等	札幌駅南口広場、与野本町駅西口都市広場、川越駅東口広場、おゆみ野駅前広場、新橋駅前広場 (S L 広場)、川崎駅東口広場、浜松駅北口駅前広場、東岡崎駅前南口広場(ガレリアプラザ)、丸亀駅広場、門司港(レトロ広場)						

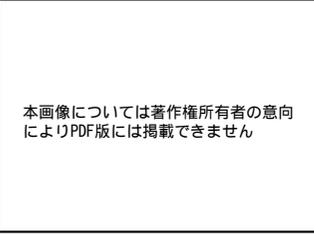
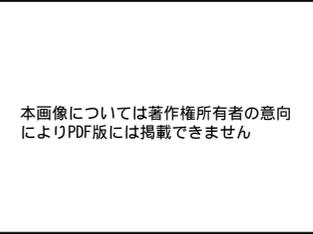
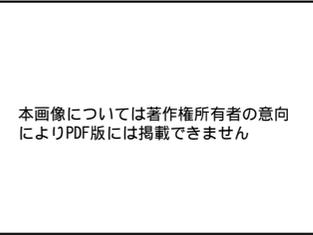


## 公園分野規範事例候補リスト

# 事例位置図【公園編】



■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 1 	No. 2 	交通広場	1	札幌駅南口広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：北海道札幌市中央区</li> <li>●管理者：札幌市</li> <li>●規模：1.9ha</li> <li>●年代：平成12(2000)年</li> <li>●その他：土木学会デザイン賞(2004)優秀賞</li> </ul>	駅前地区の再開発に合わせて整備された、人のための広場。自然木のモニュメントと石柱により、駅舎への軸線を明確にし、駅を基点とする都市軸を表現するとともに、駅への動線をわかりやすいものとしている。
No. 3 	No. 4 	空間利用型	2	モエレ沼公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：北海道札幌市東区</li> <li>●管理者：札幌市</li> <li>●規模：189ha</li> <li>●年代：平成16(2004)年</li> <li>●その他：グッドデザイン賞(2002)</li> </ul>	札幌市の「環状グリーンベルト構想」における拠点として計画された、市内では数少ない水の要素を持つ公園。彫刻家イサム・ノグチのマスタープランに基づき、「全体をひとつの彫刻」とみなした公園づくりが行われている。
		空間利用型	3	石山緑地	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：北海道札幌市南区</li> <li>●管理者：札幌市</li> <li>●規模：11.9ha</li> <li>●年代：平成5(1993)年</li> <li>●その他：</li> </ul>	採石跡地を効果的に利用した公園。高台の地形を活かした北ブロックと、岩肌の特異な景観を持つ南ブロックからなり、南ブロックは、道内在住彫刻家達の作品を取り入れたユニークな空間となっている。
No. 5 	No. 6 	地形活用型 ・ 初期西洋式	4	函館公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：北海道函館市</li> <li>●管理者：函館市</li> <li>●規模：4.8ha</li> <li>●年代：明治12(1879)年</li> <li>●その他：国登録記念物、日本の歴史公園100選</li> </ul>	英国領事ユースデンらの提唱により、多くの市民の協力で開園した北海道初の洋式公園。造成当時の原型をよくとどめており、園内には有形文化財である旧函館博物館などがあり、歴史的な重みを感じさせる。
		一体整備 共同型	5	アルテピアッツァ びばい 美唄	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：北海道美唄市</li> <li>●管理者：美唄市</li> <li>●規模：6.5ha</li> <li>●年代：平成4(1992)年</li> <li>●その他：</li> </ul>	小学校の廃校校舎とその周辺を、市出身の彫刻家、安田 侃氏の協力を得て芸術・文化交流施設として再生。自然、歴史、彫刻作品が融合した芸術空間が形成され、市を代表する芸術・文化施設として高い評価を得ている。
No. 7 	No. 8 	歴史環境 活用型	6	青森県総合運動公園 (遺跡ゾーン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：青森県青森市</li> <li>●管理者：青森県</li> <li>●規模：43ha</li> <li>●年代：昭和42(1967)年</li> <li>●その他：日本の歴史公園100選(遺跡区域)</li> </ul>	県立総合運動公園の区域内に三内丸山遺跡を擁していたことから、運動公園を近隣適地に移転することにより、その跡地を遺跡ゾーンと一体となった文化・歴史を活用することを旨として整備が進められている。
		歴史環境 活用型	7	なんこ 南湖公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：福島県白河市</li> <li>●管理者：福島県</li> <li>●規模：38.0ha</li> <li>●年代：享和元(1801)年</li> <li>●その他：国史跡・名勝、日本の歴史公園100選</li> </ul>	「大沼」と呼ばれた低湿地帯を白河藩主松平定信公が貧民救済の事業として改修し、庭園としたもの。一般庶民にも開放され、日本最古の公園といわれている。歴史環境が良好に保全活用されている。
		歴史環境 活用型	8	常磐公園(借楽園)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：茨城県水戸市</li> <li>●管理者：茨城県</li> <li>●規模：13.8ha</li> <li>●年代：天保13(1842)年</li> <li>●その他：国史跡・名勝、日本の歴史公園100選</li> </ul>	日本三大名園のひとつ。徳川斉昭が改革に精励する士民と借に楽しむ保養の場として開園した。竹林や杉森の「陰」と、梅林や好文亭の「陽」の対比の世界が創り出されており、歴史環境の保全活用が図られている。

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 9 	No. 10 	空間利用型	9	こが 古河総合公園	●所在地：茨城県古河市 ●管理者：古河市 ●規模：25.2ha ●年代：昭和50(1975)年 ●その他：ユネスコ メリナ・メルクーリ国際賞	戦後の干拓により水田と化した沼の再生を契機として、新たな風景づくりが試みられた公園。「古河総合公園づくり円卓会議」やパークマスターを配置するなど、管理運営にも工夫がなされている。
		地形活用型 (水系)	10	どうほう 洞峰公園	●所在地：茨城県つくば市 ●管理者：茨城県 ●規模：20ha ●年代：昭和55(1980)年 ●その他：	筑波研究学園都市の整備に併せてつくられた公園。洞峰沼を中心に自然豊かな環境を創出し、様々なスポーツ施設、広大な芝生広場、多彩な遊具など、都市公園としてバランスの良い空間構成がなされている。
No. 11 	No. 12 	交通広場	11	与野本町駅西口 都市広場	●所在地：埼玉県さいたま市中央区 ●管理者：さいたま市 ●規模：1.1ha ●年代：平成7(1995)年 ●その他：土木学会デザイン賞(2001)優秀賞	駅前広場としては比較的広大な空間を活かし、歩行者動線と滞留空間の関係がよくデザインされた、空間づくりの手本となる広場となっている。各施設の素材の選択、使い方、形の完成度も高い。
		公開空地等	12	さいたま新都心の ケヤキ広場	●所在地：埼玉県さいたま市中央区 ●管理者：埼玉県 ●規模：1.1ha ●年代：平成12(2000)年 ●その他：	人工地盤上に設けられた広場で、さいたま新都心駅と周囲の高層ビル利用者のオアシスとなっている。大木となる220本のケヤキを6m間隔で植栽した斬新なデザインにより、都市の中に森を再現している。
No. 13 	No. 14 	交通広場	13	川越駅東口広場	●所在地：埼玉県川越市 ●管理者：川越市 ●規模：0.6ha ●年代：平成2(1990)年 ●その他：	「小江戸」と称される川越の「歴史あるまち」を表現する空間として整備された駅前広場。蔵まちとしてのイメージを施設デザインに引用、屋敷林に使われた巨木(ケヤキ)の再利用などが図られている。
		歴史環境 活用型	14	さきたま古墳公園	●所在地：埼玉県行田市 ●管理者：埼玉県 ●規模：26.5ha ●年代：昭和51(1976)年 ●その他：	大型古墳が集中していることで全国的に有名な公園。昭和13年に国史跡に指定され、「さきたま風土記の丘」として、これら古墳群の景観を効果的に取り入れた観賞・保護・散策を目的とした公園として整備されている。
No. 15 	No. 16 	地形活用型	15	武蔵丘陵森林公園	●所在地：埼玉県比企郡滑川村、熊谷市 ●管理者：関東地方整備局国営武蔵丘陵森林公園管理所 ●規模：304ha ●年代：昭和49(1974)年 ●その他：	武蔵野の面影を残すロケーションを活かした「緑あふれる健全なレクリエーションの場の提供」をテーマとした全国で初めての国営公園。園内は、豊かな雑木林におおわれ、趣ある風景をよくとどめている。
		交通広場	16	おゆみ野駅前広場	●所在地：千葉県千葉市緑区 ●管理者：千葉市 ●規模：0.4ha ●年代：平成9(1997)年 ●その他：土木学会デザイン賞(2002)優秀賞	商業・業務街区の中央に、軸となる歩行者空間を通し、その軸と連続的に整備した駅前広場。両者の舗装パターン、照明、植栽等を一体的なものとし、統一感をもった景観形成への取り組みが良好なものとなっている。

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 17 	No. 18 	地形活用型 (水系)	17	21世紀の森と広場	●所在地：千葉県松戸市 ●管理者：松戸市 ●規模：50.1ha ●年代：平成5(1993)年 ●その他：	地域特有の谷戸地形である千駄堀の自然を守り育てることを基本理念とし、昔からある自然を生かした自然尊重型の都市公園。変化に富んだ地形で構成され、様々な自然に触れ合うことができる環境となっている。
		空間利用型	18	市原緑地運動公園	●所在地：千葉縣市原市 ●管理者：市原市 ●規模：42.7ha ●年代：昭和44(1969)年 ●その他：	工場地帯などから発生する公害や災害を防止するために設置された緩衝緑地。その緩衝緑地としての広大な空間を有効活用し、多くの市民に親しまれる総合運動公園として整備されている。
No. 19 	No. 20 	地形活用型 ・ 震災復興	19	富津公園	●所在地：千葉県富津市 ●管理者：千葉県 ●規模：108.3ha ●年代：昭和48(1973)年 ●その他：	幕末期、富津岬の基部に富津元洲砲台を築いたのに始まり、大正4年には陸軍技術研究所となるなど、首都防衛のための要所を担ってきた。戦後、その跡地を、臨海部の立地条件を効果的に活かした公園として整備された。
		空間利用型	20	日比谷公園	●所在地：東京都千代田区 ●管理者：東京都 ●規模：15.6ha ●年代：明治36(1903)年 ●その他：日本の歴史公園100選	江戸時代に大名屋敷だったこの場所は、明治初期に陸軍練兵場として利用され、明治36年に日本初の「洋風近代公園」として開園し、その後の都市公園のモデルとなった。
No. 21 	No. 22 	公開空地等	21	みずほ(旧第一勧業)銀行本店 公開空地	●所在地：東京都千代田区 ●管理者：株式会社みずほ銀行 ●規模：0.2ha ●年代：昭和56(1981)年 ●その他：	ツバキの大刈込とカスケード、風除リブで構成された公開空地。カスケードと建物の壁面にはレリーフが施され、水の流れや斜面の緑と相まって、都心とは思えない親しみのある空間を提供している。
		分散配置型 ・ 震災復興	22	浜町公園	●所在地：東京都中央区 ●管理者：中央区 ●規模：4.7ha ●年代：昭和4(1929)年 ●その他：	震災復興公園の3ヶ所の大公園のうちの1つ。緑のネットワークにより防災機能を高めようという思想の基に、計画的に公園が分散配置された。かつての肥後藩細川氏の庭園跡を公園化したもの。
No. 23 	No. 24 	歴史環境 活用型 ・ 太政官布達	23	旧芝離宮恩賜庭園	●所在地：東京都港区 ●管理者：東京都 ●規模：4.2ha ●年代：大正13(1924)年 ●その他：国名勝	江戸初期の大名庭園。関東大震災により焼失したが、翌年、東京市に下賜され庭園を復旧し、一般に公開された。歴史環境を活用し、今に伝えるものとなっている。
		地形活用型	24	国立科学博物館附属自然教育園(旧白金御料地)	●所在地：東京都港区 ●管理者：独立行政法人国立科学博物館 ●規模：20ha ●年代：昭和24(1949)年 ●その他：国天然記念物・史跡	中世に白金長者とよばれる豪族が館を構えたのに始まり、大正期の白金御料地などを経て、昭和24年の文化財指定と同時に一般公開された。都市の中にあつて貴重な、自然本来の姿に近い森を形成している。

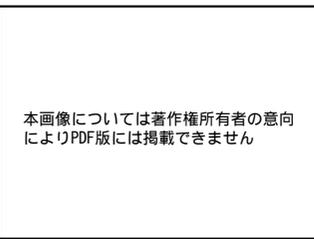
■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 25 	No. 26 	交通広場	25	新橋駅前広場 (S L 広場)	●所在地： 東京都港区 ●管理者： 港区 ●規模： ー ●年代： 昭和47(1972)年 ●その他： ー	歩行者のための駅前広場として自動車交通を分離し、優れた空間構成を実現している。2006年にリニューアルされ、噴水撤去により空間が拡張し、バリアフリー化、ヒートアイランドの緩和施設などが整備されている。
		公開空地等	26	新宿三井ビル (5 5 ひろば)	●所在地： 東京都新宿区 ●管理者： 三井不動産(株) ●規模： 1.0ha ●年代： 昭和60(1985)年 ●その他： ー	ビルの地下1階から地上まで立体的に設けられた公開空地。超高層の建物によって囲まれた空間を、豊富な緑と壁泉などによって人のための広場として提供しており、都市にうるおいと憩いを与える場となっている。
No. 27 	No. 28 	歴史環境 活用型	27	小石川植物園	●所在地： 東京都文京区 ●管理者： 国立大学法人東京大学 ●規模： 16.2ha ●年代： 明治10(1877)年 ●その他： 都史跡	日本で最も古い植物園の1つ。貞享元年(1684)に徳川幕府が作った「小石川御薬園」がその前身であり、明治10年に東京大学が設立されると共に、直ちに附属植物園となり、歴史環境を活かした植物園として公開されている。
		地形活用型 ・ 震災復興	28	大塚公園	●所在地： 東京都文京区 ●管理者： 文京区 ●規模： 1.5ha ●年代： 昭和3(1928)年 ●その他： ー	昭和3年に開園した由緒ある公園で、藤棚や入口奥の露壇、トレリス、大噴水などがモダンな景観を作り出し、古さの中に新しさを感じさせるデザインとなっている。現在でも、当時のデザインが比較的良くとどめられている。
No. 29 	No. 30 	一体整備 共同型 ・ 震災復興	29	元町公園 (震災復興小公園)	●所在地： 東京都文京区 ●管理者： 文京区 ●規模： 0.4ha ●年代： 昭和5(1930)年 ●その他： 日本の歴史公園100選	関東大震災の復興小公園として、計画的な分散配置と小学校との一体的整備が行われたうちのひとつ。昭和59年に、文京区が設計図などをもとに開園当時の姿に復元。整備当時の姿をよくとどめている。
		歴史環境 活用型 ・ 太政官布達	30	上野恩賜公園	●所在地： 東京都台東区 ●管理者： 東京都 ●規模： 53.1ha ●年代： 昭和6(1931)年 ●その他： 日本の歴史公園100選	江戸期から「上野の山」と称された名所を、明治期の近代化施策の一環として公園化。元来の地形的特性を活かし、名所としての賑わいを踏襲しつつ、現在は各種施設が集約する「文化の森」として発展を遂げている。
No. 31 	No. 32 	分散配置型 ・ 震災復興	31	隅田公園	●所在地： 東京都墨田区、台東区 ●管理者： 台東区、墨田区 ●規模： 18.7ha ●年代： 昭和6(1931)年 ●その他： ー	震災復興事業による大公園の1つで、日本で初めてのリバーサイドパークといわれている。江戸の桜堤をモダンなデザインで復活、大正モダニズムの影響をうけ、当時きわめて斬新なものであった。
		分散配置型 ・ 震災復興	32	錦糸公園	●所在地： 東京都墨田区 ●管理者： 墨田区 ●規模： 5.6ha ●年代： 昭和3(1928)年 ●その他： ー	震災復興大公園の1つ。当時の面影はほとんどないが、開園当時の門柱が今も残る。現在は、多目的運動公園として、また、地域の各種イベントの会場として活用され、都市部の貴重な空間として親しまれている。

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 33 	No. 34 	歴史環境 活用型	33	ろか 芦花公園 <small>(ろかこうしゆんえん 蘆花恒春園)</small>	●所在地： 東京都世田谷区 ●管理者： 東京都 ●規模： 6.9ha ●年代： 昭和13(1938)年 ●その他： 都史跡(徳富蘆花旧宅)	明治・大正時代の文豪「徳富蘆花」の旧宅と庭、それに蘆花夫妻の墓地を中心とした旧邸地部分とその周辺を買収してつくられた公園。旧宅をそのまま保存しており、武蔵野の雑木林がその面影を残している。
		空間利用型 ・ 戦災復興	34	きめた 砧公園	●所在地： 東京都世田谷区 ●管理者： 東京都 ●規模： 39.1ha ●年代： 昭和32(1957)年 ●その他：	紀元2600年記念事業で計画された大緑地の1つとして東京緑地計画に位置づけられた。戦中は防空空地として利用されたが、大空間が確保されていたことにより、現在は地形を活かした芝生広場と樹林の公園となっている。
No. 35 	No. 36 	空間利用型 ・ 戦災復興	35	駒沢オリンピック公園	●所在地： 東京都世田谷区 ●管理者： 東京都 ●規模： 41.2ha ●年代： 昭和38(1963)年 ●その他：	東京オリンピックの会場として整備された施設を活かした総合運動公園。体育館などの特徴的な建築物は当時と変わらない姿を見せ、これらと成長した木々とが調和し、独特な風景を作り出している。
		地形活用型	36	とどろき 等々力溪谷公園	●所在地： 東京都世田谷区 ●管理者： 世田谷区 ●規模： 延長1km ●年代： 昭和49(1974)年 ●その他： 都名勝	谷沢川右岸に位置し、崖地の地形や自然環境を巧みに活かして作庭された庭園を中心とした公園。昭和8年に国から風致公園として指定され、世田谷区により、昭和49年に溪谷の河川と斜面地の一部を風致公園として開園された。
No. 37 	No. 38 	公開空地等	37	ようが 用賀プロムナード	●所在地： 東京都世田谷区 ●管理者： 世田谷区 ●規模： L=1.0km ●年代： 昭和61(1986)年 ●その他：	用賀駅から砧公園を結ぶ、水路や豊富な樹木が一体となった歩車共存型の道路。クランクなどの一般的な手法は用いず、曲線を主体とした線形のデザインによって車両の通過速度を落とさせる工夫が施されている。
		一体整備 共同型	38	はねぎ 羽根木プレーパーク	●所在地： 東京都世田谷区 ●管理者： NPO7°レーパークセタがや、世田谷区 ●規模： 0.3ha ●年代： 昭和54(1979)年 ●その他：	遊具などを置かずに、子供達が自由に遊べる広場づくりが行われた。地域住民主体で開設した夏休み限定の『こども天国』が子供達から絶大な支持を受け、区との協働により常設化された。
No. 39 	No. 40 	地形活用型 (水系)	39	じだゆうほり 次大夫堀公園	●所在地： 東京都世田谷区 ●管理者： 世田谷区 ●規模： 3.4ha ●年代： 昭和55(1980)年 ●その他：	江戸幕府開設前後に開削した農業用水である次大夫堀を復原し、古民家や水田などで構成される、昔の世田谷の農村風景を再現した公園。すぐ横を野川が流れており、公園の内外に世田谷の田園情緒が残っている。
		空間利用型	40	代々木公園	●所在地： 東京都渋谷区 ●管理者： 東京都 ●規模： 55ha ●年代： 昭和42(1967)年 ●その他：	戦後、進駐軍宿舎として利用されていた土地を活用し、東京オリンピックの選手村と代々木森林公園として整備した。その後、選手村跡地を含めた広大な空間を森と水に囲まれた都市の中のおアシスとして再整備を図った。

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 41 	No. 42 	地形活用型	41	哲学堂公園	●所在地：東京都中野区 ●管理者：中野区 ●規模：5.2ha ●年代：明治39(1906)年 ●その他：区有形文化財	かつて、この丘陵地は和田山とも呼ばれていた。哲学堂として最初に創設された「時空岡」は、丘上の平坦をもって哲学の時間空間を表現するなど、その地形を巧みに利用してつくられた公園となっている。
		地形活用型 (水系) ・ 戦災復興	42	善福寺公園	●所在地：東京都杉並区 ●管理者：東京都 ●規模：7.9ha ●年代：昭和36(1961)年 ●その他：	広大な善福寺池を効果的に取り入れ、自然豊かな公園として整備されている。池の水は、かつては神田上水の補助水源として利用されたほど澄んでおり、湧水量も多く、武蔵野三大湧水池のひとつとして知られる。
No. 43 	No. 44 	地形活用型 (水系)	43	大宮前公園	●所在地：東京都杉並区 ●管理者：杉並区 ●規模：0.4ha ●年代：昭和44(1969)年 ●その他：	樹林地であった民地を買収し、その既存樹を活用して整備された公園。園内には水路が設けられ、この公園の大きな特徴となっている。この水路が樹林の木立の間を縫って流れ、その風情は昔の武蔵野の里山を感じさせる。
		歴史環境 活用型 ・ 太政官布達	44	飛鳥山公園	●所在地：東京都北区 ●管理者：北区 ●規模：7.3ha ●年代：昭和6(1931)年 ●その他：	徳川吉宗が享保の改革の一環として整備・造成を行った公園として知られる。現在も当時の地形をそのまま留めており、桜の名所として、毎年春には多くの人が訪れる。
No. 45 	No. 46 	空間活用型	45	みずもと 水元公園	●所在地：東京都葛飾区 ●管理者：東京都 ●規模：61.5ha ●年代：昭和40(1965)年 ●その他：	小合溜という遊水池を中心とした都内最大の水郷公園。昭和14年に制定された東京緑地計画における6つの「大緑地」のひとつで、戦時下では防空緑地となり、戦後、その水辺の立地を活かした公園として整備された。
		地形活用型	46	うばがや児童公園 (乳母が谷公園)	●所在地：東京都八王子市 ●管理者：八王子市 ●規模：1.08ha ●年代：昭和50(1975)年 ●その他：	住宅団地に隣接する標準規模より大きい児童公園。元来の地形の高低差をうまく活かしたつくりとなっており、上段は運動広場、下段は砂場と木製遊具が設置され、土地の高低のつなぎに大きな滑り台が設置されている。
No. 47 	No. 48 	空間利用型	47	昭和記念公園	●所在地：東京都立川市、昭島市 ●管理者：関東地方整備局国営昭和記念公園事務所 ●規模：157.5ha ●年代：昭和58(1983)年 ●その他：	昭和天皇在位50周年を記念して、昭和52年に米軍から全面返還された立川基地跡地に設置された国営公園。樹林地为基調とし、武蔵野の景観を蘇生させるための修景を施すとともに、水を有効に活用した公園となっている。
		地形活用型	48	おくみたけいえんち 奥御岳景園地	●所在地：東京都青梅市 ●管理者：青梅市、武蔵御嶽神社 ●規模：3.3ha ●年代：昭和10(1935)年 ●その他：都名勝	昭和10年に景園地(優れた風景地を公園化することなく、部分的な利用施設を整備しながら保全しようとする地域)として指定。景観面だけでなく、滝の形成過程を知る上での学術的価値も高い。平成12年に都名勝指定。

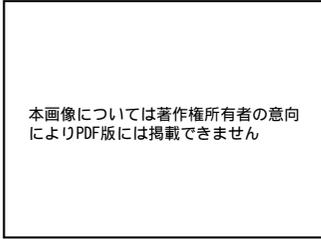
■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 49 	No. 50 	空間利用型 ・ 戦災復興	49	じんだい 神代植物園	●所在地： 東京都調布市 ●管理者： 東京都 ●規模： 30ha ●年代： 昭和36(1961)年 ●その他：	元は街路樹などを育てるための苗圃であり、戦後、その空間を活用し、神代緑地として公開した。昭和36年に神代植物園と改め、植物を中心とした公園として開園をされた。四季を通じて草木を楽しむことができる。
No. 51 	No. 52 				歴史環境 活用法	50
		空間利用型 ・ 戦災復興	51	小金井公園	●所在地： 東京都小金井市、小平市、西東京市 ●管理者： 東京都 ●規模： 77.6ha ●年代： 昭和29(1954)年 ●その他：	玉川上水沿いに位置する武蔵野の風景を残した郊外の大公園。東京緑地計画に位置づけられ、紀元2600年記念事業で計画された大緑地の1つとして、計画的な空間確保がなされた。
No. 53 	No. 54 	地形活用法 (水系)	52	多摩動物公園	●所在地： 東京都日野市 ●管理者： 東京都 ●規模： 52.3ha ●年代： 昭和33(1958)年 ●その他：	自然環境に恵まれた多摩丘陵に位置し、その地形や植生を活かして整備された動物公園。動物の飼育には、広大な敷地を活かした自然放養式が採られている。ライオン園や昆虫園にその特徴が見られる。
		ネットワーク型	53	玉川上水緑道	●所在地： 東京都福生市、昭島市、立川市、小平市、三鷹市、武蔵野市 ●管理者： 東京都 ●規模： 12.8ha ●年代： 昭和56(1981)年 ●その他：	玉川上水は、江戸の人口増加に対応するために多摩川の水を江戸に引くことを目的として整備された。その歴史性や水景としての魅力を活かして沿川を緑道として整備しており、かつての上水の面影を求めて散策が楽しめる。
No. 55 	No. 56 	ネットワーク型	54	多摩ニュータウン (B-3, 落合鶴牧)	●所在地： 東京都 ●管理者： 都市再生機構(旧都市基盤整備公団) ●規模： 2,892ha(全体計画面積) ●年代： 昭和57(1982)年 ●その他：	地域的なスケールでの眺望の確保や、公園緑地の連携による基幹となるオープンスペースの形成により、これまでの点的な公園・緑地の分散配置にはない街づくりが試みられ、包括的な景観が創出されている。
		分散配置 ・ 初期西洋式	55	多摩ニュータウン (B-6, 稲城向陽台)	●所在地： 東京都 ●管理者： 都市再生機構(旧都市基盤整備公団) ●規模： 2,892ha(全体計画面積) ●年代： 昭和63(1988)年 ●その他：	既存緑地の保全や住区間への公園緑地の配置、幹線道路のブルーパルを生活環境軸として体系化することなどにより、地域環境保全を意図する「緑の環」を実現。現況地形を活かした造成に特徴がある。
			56	山手公園	●所在地： 神奈川県横浜市中区 ●管理者： 横浜市 ●規模： 2.8ha ●年代： 明治3(1870)年 ●その他： 国名勝	横浜山手の外国人居留地に造られた日本最初の洋式公園。当時の景観や地割りが残存する。日本テニス発祥地、ヒマラヤスギが初めて播種されたことなどにより、近代公園として初めて名勝として文化財指定を受けている。

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 57 	No. 58 	分散配置 ・ 震災復興	57	山下公園	●所在地：神奈川県横浜市中区 ●管理者：横浜市 ●規模：7.4ha ●年代：昭和5(1930)年 ●その他：	関東大震災による焦土やがれきで海を埋め立てて建設された公園。海沿いに確保されたオープンスペースが心地よく、立地条件を効果的に活かしている。日本で最初の本格的な臨海部における公園といわれている。
		分散配置 ・ 戦災復興	58	港の見える丘公園	●所在地：神奈川県横浜市中区 ●管理者：横浜市 ●規模：5.3ha ●年代：昭和37(1962)年 ●その他：	横浜開港期に英・仏の軍隊が駐屯した場所として知られ、戦後、米軍による接收解除後から公園として整備された。港の風景を望む絶好のロケーションを活かした公園であり、横浜を代表する観光拠点にもなっている。
No. 59 	No. 60 	公開空地等	59	横浜開港記念広場	●所在地：神奈川県横浜市中区 ●管理者：横浜市 ●規模：0.2ha ●年代：昭和57(1982)年 ●その他：	横浜の開港を記念する広場。繁華街の中に担保性のある広場を設けるのをねらいとして、広場公園として整備された。街角のオープンスペースとして、質の高い空間構成を実現している。
		ネットワーク型	60	港北ニュータウン	●所在地：神奈川県横浜市都筑区 ●管理者：都市再生機構(旧都市基盤整備公団) ●規模：2,530ha ●年代：平成8(1996)年 ●その他：	横浜市郊外の大規模ニュータウン開発。都市と農業の調和した新しい街を実現するため、緑の環境を最大限に保存し、ふるさとをしのげるまちづくりが展開されている。
No. 61 	No. 62 	交通広場	61	川崎駅東口広場	●所在地：神奈川県川崎市川崎区 ●管理者：川崎市 ●規模：3ha ●年代：昭和61(1986)年 ●その他：	都市活性化事業の一環として、有識者と市による「アーバン・デザイン委員会」が作成したデザイン方針に基づく駅前広場。白を基調としたイメージで統一され、巨木となるクスノキやケヤキによる緑化修景がなされている。
		歴史環境 活用型 ・ 太政官布達	62	兼六園	●所在地：石川県金沢市 ●管理者：石川県 ●規模：10.1ha ●年代：明治7(1874)年 ●その他：国特別名勝、日本の歴史公園100選	我が国の三大庭園のひとつ。太政官布達による公園。江戸期の代表的な林泉回遊式大庭園の特徴を伝えており、広大な園内は起伏のある地形を活かしつつ、水の流れや様々な樹木が、四季折々の美しさを醸しだしている。
No. 63 	No. 64 	公開空地等	63	片山津まちなか広場	●所在地：石川加賀市 ●管理者：加賀市 ●規模：0.3ha ●年代：平成18(2006)年 ●その他：	地区を代表する柴山湯(自然再生)へのメッセージをこめた修景池をはじめ、展望デッキや足湯を備えた多目的空間として整備された、温泉地の顔となる街中の広場。
		ネットワーク型	64	おおしろうず 大清水空間	●所在地：福井県勝山市 ●管理者：勝山市 ●規模：100㎡(源泉部)、480㎡(大清水) ●年代：平成18(2006)年 ●その他：	旧城下町における、広場と水路と街路の一体的な整備による中心市街地の再生。歴史的シンボルである「大清水源泉部」とせせらぎ、街角広場「大清水広場」と細街路網を一体的に整備し、勝山再生の基盤とした。

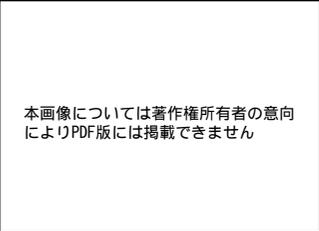
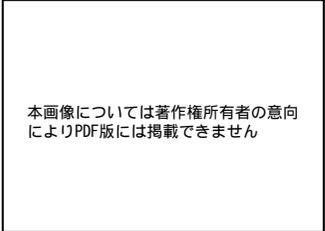
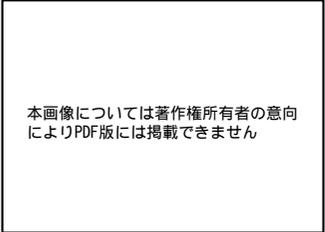
■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 65	No. 66	歴史環境 活用型 ・ 太政官布達	65	城山公園	●所在地：岐阜県高山市 ●管理者：高山市 ●規模：24.3ha ●年代：昭和6(1931)年 ●その他：県史跡、日本の歴史公園100選	高山城跡を利用した、太政官布達による公園。1510年頃に城が築かれ、山城としては「天下に三指と数えられる名城」とうたわれた。元禄年間に取り壊され、その後、城跡は町民が親しむ公園となり、歴史性を継承している。
 本画像については著作権所有者の意向によりPDF版には掲載できません						
No. 67	No. 68	歴史環境 活用型 ・ 戦災復興	67	楽寿園	●所在地：静岡県三島市 ●管理者：三島市 ●規模：7.2ha ●年代：昭和27(1952)年 ●その他：国天然記念物・名勝 日本の歴史公園100選	明治23年に小松宮彰仁親王が造営した庭園で、現在は歴史性を継承した公園となっている。天然の池泉に湧き出す富士山の雪解け水や周辺の自然林を取り込んだ園地が評価され、国の天然記念物及び名勝に指定されている。
						
No. 69	No. 70	歴史環境 活用型	69	名城公園	●所在地：愛知県名古屋市北区 ●管理者：名古屋市 ●規模：76.0ha ●年代：昭和6(1931)年 ●その他：日本の歴史公園100選	名古屋城の城址公園。旧陸軍練兵場であった跡地を利用し、城を中心に二の丸、三の丸、北園で構成される市を代表する総合公園として整備された。歴史性を活かしながら、レクリエーションの拠点となっている。
						
No. 71	No. 72	空間利用型 ・ 戦災復興	71	大高緑地	●所在地：愛知県名古屋市緑区 ●管理者：愛知県 ●規模：98.6ha ●年代：昭和38(1963)年 ●その他：	若草山の芝生広場を中心とした多様な施設を有する公園。当初、防空を目的とした緑地であった。戦後、農地解放の対象となり、残ったオープンスペースをもとに公園整備が図られ、昭和38年に都市公園として開園された。
						

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 73 	No. 74 	地形活用型 (水系)	73	ちごのくち 児ノ口公園	●所在地：愛知県豊田市 ●管理者：豊田市 ●規模：1.9ha ●年代：平成8(1996)年 ●その他：土木学会デザイン賞(2004)最優秀賞	それまでにあったプールや野球場のある公園を再整備し、地下化されていた川を再生し、自然豊かな日本の原風景を創出した公園。地域のお年寄りの強い要請により改修が進められ、管理・運営も住民主体で行われている。
No. 75 	No. 76 				歴史環境活用型	74
		一体整備共同型	75	宝ヶ池公園	●所在地：京都府京都市左京区 ●管理者：京都市 ●規模：62.7ha ●年代：昭和39(1964)年 ●その他：	江戸時代に灌漑用貯水池として作られた宝ヶ池を中心に、その周辺一帯を整備した自然を活かした公園。戦時下では防空緑地となったが、戦後、隣接地に国立京都国際会館が建設され、合わせて公園整備が進められた。
No. 77 	No. 78 	歴史環境活用型 ・ 太政官布達	76	まるやま 円山公園	●所在地：京都府京都市東山区 ●管理者：京都市 ●規模：9.0ha ●年代：大正2(1913)年 ●その他：国名勝	太政官布達による公園。八坂神社の東部に広がり、園域は八坂神社、知恩院に隣接する。自然の丘陵を利用して回遊式日本庭園や「祇園枝垂桜」に代表される桜の名所でもあり、歴史性を継承した公園となっている。
		地形活用型 (水系)	77	中之島公園	●所在地：大阪府大阪市北区 ●管理者：大阪市 ●規模：10.6ha ●年代：明治24(1891)年 ●その他：	明治期に大阪府で初めて誕生した公園。堂島川と土佐堀川にはさまれた立地条件を活かし、都心のオアシスを創出している。中央公会堂、府立中之島図書館などの重厚な建築物が緑に映え、美しい景観を見せている。
No. 79 	No. 80 	歴史環境活用型 ・ 太政官布達	78	大阪城公園	●所在地：大阪府大阪市中央区 ●管理者：大阪市 ●規模：107.7ha ●年代：昭和6(1931)年 ●その他：日本の歴史公園100選	大正13年より、軍用地であった大阪城跡地を借りて公園整備を推進し、現在では広大な敷地を誇る。多くの重要文化財が残存し、一方では、緑豊かな市民の森などが整備され、都市のオアシスとなっている。
		空間利用型 ・ 戦災復興	79	服部緑地	●所在地：大阪府豊中市、吹田市 ●管理者：大阪府 ●規模：126.3ha ●年代：昭和25(1950)年 ●その他：	千里丘陵の西側に位置する、ゆるやかな起伏に富む公園。昭和初期から整備を開始し、戦中は防空空地などとなったが、オープンスペースとして位置づけられた空間は、再び公園として整備された。
		空間利用型	80	万博記念公園	●所在地：大阪府吹田市 ●管理者：独立行政法人日本万国博覧会記念機構 ●規模：259ha ●年代：昭和46(1971)年 ●その他：	日本万国博覧会(大阪万博)の跡地を利用して整備された公園。各国展示館跡は自然文化園とし、わが国の造園技術の粋を集めた日本庭園はそのまま活かすなど、博覧会開催時の施設も活用されている。

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 81 	No. 82 	地形活用型	81	六甲山高山植物園	●所在地： 兵庫県神戸市灘区 ●管理者： 阪神電気鉄道株式会社 ●規模： 5.0ha ●年代： 昭和8(1933)年 ●その他：	植物学の牧野富太郎博士の指導を受け開園した。海拔865mに位置するため年平均気温は北海道並であり、この気候を利用した植物園として、世界の高山植物、寒冷地の植物など約1,500種の植物を栽培している。
No. 83 	No. 84 				地形活用型	82
		地形活用型	83	ふたたび再度公園及びふたたび永久植生保存地	●所在地： 兵庫県神戸市中央区 ●管理者： 神戸市 ●規模： 51.5ha ●年代： 昭和12(1937)年 ●その他： 国登録記念物、日本の歴史公園100選	六甲山地、再度山頂上の北に位置する公園で、「再度公園及び再度山永久植生保存地」として国の登録記念物となっている。修法ヶ原池畔は六甲連山屈指の紅葉の名所。瀬戸内海国立公園の区域に含まれる。
No. 85 	No. 86 	空間利用型	84	浜手緑地	●所在地： 兵庫県姫路市広畑区 ●管理者： 姫路市 ●規模： 22ha ●年代： 昭和44(1969)年 ●その他：	臨海部の工業地帯とその後背地域における住民の生活環境の保全を図るため、郷土種による緑化がはかられた緩衝緑地。その空間を有効活用し、周辺住民のレクリエーションの場所としての利用が図られている。
		歴史環境活用型 ・ 太政官布達	85	奈良公園	●所在地： 奈良県奈良市 ●管理者： 奈良県 ●規模： 502.1ha ●年代： 明治13(1880)年 ●その他： 国名勝	貴重な歴史・文化遺産である東大寺、興福寺、春日大社、正倉院などを包蔵する、他に類例のない歴史公園。これら歴史資源とそれらをとりまく雄大で豊かな緑の自然美が調和し、古都奈良に相応しい風景となっている。
No. 87 	No. 88 	一体整備共同型	86	岸公園	●所在地： 島根県松江市 ●管理者： 松江市 ●規模： 2.8ha ●年代： 平成11(1999)年 ●その他： 土木学会デザイン賞(2003)最優秀賞	宍道湖畔に作られた県立美術館前に広がる芝生を中心とした親水公園。宍道湖に沈む夕日と、美術館の現代建築様式、園内の彫刻群とが織り成す風景の眺望スポットとなっており、美術館と公園の一体化が成功している。
		地形活用型 (水系)	87	西川緑道公園	●所在地： 岡山県岡山市 ●管理者： 岡山市 ●規模： 1.7ha ●年代： 昭和49(1972)年 ●その他：	市内の中心部を南北に流れる西川用水の兩岸を緑道として整備された公園。水系を効果的に活用した総延長2.4kmの緑豊かな緑道には、水景施設や休養施設を配し、散歩道として、また憩いの場として親しまれている。
		歴史環境活用型	88	円通寺公園	●所在地： 岡山県倉敷市 ●管理者： 倉敷市 ●規模： 6.6ha ●年代： 昭和49(1974)年 ●その他： 県名勝	良寛が修行したことで有名な円通寺を中心に広がる公園。開山堂などの寺院や庭園など歴史性が継承されている。また、白樺山の頂上にあることから、玉島の古い町並みや瀬戸内海が見渡すことができる。

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 89 	No. 90 	歴史環境 活用型 ・ 戦災復興	89	広島平和記念公園	●所在地： 広島県広島市中区 ●管理者： 広島市 ●規模： 12.2ha ●年代： 昭和29(1954)年 ●その他： 日本の歴史公園100選	1949年の「広島平和記念都市建設法」の制定にともない、爆心地に近い広島市中区に整備された平和公園。戦争の歴史を象徴的に伝えている。設計は、丹下健三東大助教授（当時）ほか3名の共同作品となっている。
		歴史環境 活用型 ・ 戦災復興	90	縮景園	●所在地： 広島県広島市中区 ●管理者： 広島県 ●規模： 4.7ha ●年代： 昭和15(1940)年 ●その他： 国名勝、日本の歴史公園100選	広島藩主別邸の庭園として築成され、昭和15年に浅野家から広島県に寄贈、名勝にも指定された。戦中、原爆によって壊滅状態になったが、県教育委員会が戦災前の景観に復すべく整備され、歴史性の継承が図られている。
No. 91 	No. 92 	歴史環境 活用型 ・ 太政官布達	91	栗林公園 <small>りつりん</small>	●所在地： 香川県高松市 ●管理者： 香川県 ●規模： 75.3ha ●年代： 明治8(1875)年 ●その他： 国特別名勝、日本の歴史公園100選	太政官布達による公園。緑濃い紫雲山を借景に6つの池と13の築山で構成された名園は、「一步一景の美」と称賛されている。国の特別名勝にも指定されており、歴史的な景観を良好な形で今に残している。
		歴史環境 活用型	92	玉藻公園 <small>たまも</small>	●所在地： 香川県高松市 ●管理者： 高松市 ●規模： 8.0ha ●年代： 昭和30(1955)年 ●その他： 国史跡	天正15(1587)年築城着手された瀬戸内海に臨む66haの高松城（玉藻城）の天守閣跡を含めた部分を公園整備。全域を老松が覆い、藩主住居・政庁の跡地に建つ数寄屋建築の披雲閣には仕立て松植栽の見事な庭がある。
No. 93 	No. 94 	交通広場	93	丸亀駅広場	●所在地： 香川県丸亀市 ●管理者： 丸亀市 ●規模： 1ha ●年代： 平成4(1992)年 ●その他：	連続立体交差事業に伴い再整備された駅前広場。隣接する市立美術館など公共施設との連続性が図られるよう、デザインに配慮がなされている。歩行者空間が広く取られ、イベントの開催等にも使用されている。
		歴史環境 活用型 ・ 太政官布達	94	琴弾公園 <small>ことびき</small>	●所在地： 香川県観音寺市 ●管理者： 香川県 ●規模： 38.7ha ●年代： 明治30(1897)年 ●その他： 国名勝	琴弾山と有明浜一帯が公園区域。園内に砂絵「寛永通宝」があり、琴弾山々頂からの展望が見所となっている。園内には琴弾八幡宮など名所旧跡が点在。昭和11年名勝指定。歴史環境の継承が図られている。
No. 95 <div data-bbox="129 1201 443 1417" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">本画像については著作権所有者の意向によりPDF版には掲載できません</div>	No. 96 	歴史環境 活用型	95	広瀬公園	●所在地： 愛媛県新居浜市上原 ●管理者： 新居浜市 ●規模： 3ha ●年代： 昭和45(1970)年 ●その他： 県名勝	住友グループの基礎を確立した広瀬幸平が建設した私邸と庭園などを、昭和45年に広瀬家から新居浜市に寄贈された。現在は公園として歴史環境の保全、活用が図られている。
		交通広場	96	門司港(レトロ広場) <small>もじ</small>	●所在地： 福岡県北九州市門司区 ●管理者： 北九州市 ●規模： 0.6ha ●年代： 平成5(1993)年 ●その他： 国重文(駅舎)	門司港レトロ地区のシンボルである大正期に建てられた九州で最も古い木造の駅舎との調和に配慮した駅前広場。ネオ・ルネッサンス様式の駅舎と噴水のある広場が融合し、美しい景観を創りだしている。

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 97 	No. 98 	地形活用型 (水系)	97	ひびきなだ 響灘緑地	●所在地：福岡県北九州市若松区 ●管理者：北九州市 ●規模：196ha ●年代：昭和43(1968)年 ●その他：	「水・緑・そして動物たちとのふれあい」を基本テーマとした市内最大の公園。変化に富んだ水際が特徴である頼田貯水池を中心に、山林や原野などの自然資源を活かした公園づくりが行われている。
		地形活用型 (水系)	98	海の中道海浜公園	●所在地：福岡県福岡市東区 ●管理者：九州地方整備局海の中道海浜公園事務所 ●規模：249ha ●年代：昭和56(1981)年 ●その他：	九州地方の広域レクリエーション需要への対応を目的に設けられた国営公園。博多湾と玄海灘を隔てる半島、通称「海の中道」の良好な自然環境と雄大な景観を生かした大スケールでの整備がなされている。
No. 99 	No. 100 	空間利用型 ・ 太政官布達	99	おおほり 大濠公園	●所在地：福岡県福岡市中央区 ●管理者：(財)福岡県公園管理センター ●規模：39.2ha ●年代：昭和4(1929)年 ●その他：	入り江であったこの地を福岡城の外堀として利用したことにはじまり、昭和初期の東亜勧業博覧会を機に公園として整備。敷地の半分以上を池面で占め、景観要素として有効に活用。全国有数の水景公園となっている。
		地形活用型 ・ 戦災復興	100	南公園	●所在地：福岡県福岡市中央区 ●管理者：福岡市 ●規模：27ha ●年代：昭和28(1953)年 ●その他：	緑に囲まれた丘陵地の地形を活かし、博多湾や福岡市内などを一望できる公園として整備。南公園エリア、動物園エリア、植物園エリアで構成されている。南公園エリアは風致地区として緑深い樹林を形成している。
No. 101 	No. 102 	公開空地等	101	アクロス福岡	●所在地：福岡県福岡市中央区 ●管理者：(財)アクロス福岡 ●規模：1.4ha(敷地面積) ●年代：平成7(1995)年 ●その他：	県庁跡地開発による複合施設。建物前面の天神中央公園の緑との連続性を重視し、建物周辺の平面的な植栽だけではなく、建物そのものの景観を山のイメージに演出するため、階段状の屋上庭園として工夫されている。
		地形活用型 (水系)	102	長崎水辺の森公園	●所在地：長崎県長崎市 ●管理者：長崎県 ●規模：6.5ha ●年代：平成16(2004)年 ●その他：グッドデザイン賞(2004)金賞 土木学会デザイン賞(2006)優秀賞	埋立によって生じた用地を活用し、都心部に不足しているオープンスペースを確保する目的で整備された長崎の新しい顔となる親水空間。水辺と街とをプロムナードや特徴的な橋梁で結びつけている。
No. 103 	No. 104 	歴史環境 活用型	103	大村公園	●所在地：長崎県大村市 ●管理者：大村市 ●規模：21.4ha ●年代：昭和54(1979)年 ●その他：日本の歴史公園100選、全国さくら100選	大村藩主の居城、玖島城跡に歴史環境を活用して整備された公園。三方を海に囲まれ、1599年の築城時の見事な石垣がほとんど当時のまま残っている。現在は花の名所として、「全国さくら百選の地」に選ばれている。
		空間利用型	104	別府公園	●所在地：大分県別府市 ●管理者：別府市 ●規模：27.3ha ●年代：昭和52(1977)年 ●その他：日本の歴史公園100選	別府市役所に隣接する市民の憩いの場。自衛隊駐屯地の移転により返還された土地を活用し、昭和天皇御在位50年記念公園として整備。市の中心にあることから、年間を通して各種イベント会場として活用されている。

■【公園分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 105 	No. 106 	歴史環境 活字型 ・ 太政官布達	105	のういけ 納池公園	●所在地： 大分県竹田市 ●管理者： 竹田市 ●規模： 1.2ha ●年代： 明治6(1873)年 ●その他： 県名勝	慶長年間からの遊楽地で知られ地盤 国有公園に指定された由緒ある庭園。 明治6年に太政官布達により地域公園と され、歴史性の継承が図られている。 約3分の1を湧水池が占め、老杉が生 い茂る天然の日本式庭園。
		歴史環境 活字型	106	特別史蹟公園 さいとばる 西都原古墳群	●所在地： 宮崎県西都市 ●管理者： 宮崎県 ●規模： 61ha ●年代： 昭和42(1967)年 ●その他： 国史跡、日本の歴史公園100選	4～7世紀頃に築造された多くの様々 な形をした古墳群を活かした公園。昭 和27年に国特別史跡に指定され、わが 国初の「風土記の丘」として整備され た。必要以上の施設は設けず、周辺 の農村風景と一体となっている。
No. 107 		空間利用型	107	沖縄記念公園 海洋博覧会地区	●所在地： 沖縄県国頭郡本部町 ●管理者： 沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所 ●規模： 77ha ●年代： 昭和51(1976)年 ●その他：	沖縄国際海洋博覧会を記念し、その 跡地を活用して整備された国営公園。 沖縄の美しい海との調和や、その温暖 な気候を活かした空間づくりがなさ れ、現在では、沖縄本島北部の観光の 拠点としての役割を果たしている。
※特記無き写真は、大日本コンサルタント株式会社が撮影				注記)	●その他： 受賞歴や文化財指定等について表記 土木学会デザイン賞・デザイン賞…土木学会景観・デザイン賞	

## ●公園分野における規範事例選定の考え方

### (1) 事例選定のポイント

#### ① 選定対象

- ・前項で抽出した規範候補（107 事例）から選定した。

#### ② 選定のポイント

部会において協議した結果を踏まえ、規範事例の選定に関するポイントを以下に整理した。

##### 【ポイント1 自然資源の活用】

- ・公園におけるデザインを評価する上で、地形に対するデザインや、水を活かしたデザインなど、計画・設計の段階でいかに自然の地形と水を活かす工夫がなされ、気持ちのよい空間が作られているかが重要である。

##### 【ポイント2 成立過程における工夫】

- ・古くからの名所としての価値や、元々あった歴史的な資源を生かし、どのようにして近代の公園として整備を行ったのか、時代の要請による土地利用の転換や施設の転用による公園の整備など、公園の由来やその成立のためのプロセスについて評価がなされる。

##### 【ポイント3 周辺地域との関わり】

- ・公園と周辺地域との関わりや、公園が地域の特徴を決定づける要因となっていること、地域住民との協働により、地域の状況に即した公園づくりが行われていることなどの観点も重要である。

##### 【ポイント4 新たな風景の創出】

- ・新たな空間を創出し、公園としてつくられたもので、その空間を作り出すための手法や、新たな風景的価値を創出することについて知恵が絞られているものが評価に値する。

##### 【ポイント5 公園群としての配置（ネットワーク）】

- ・単体の公園としてではなく、コミュニティ形成の観点から計画的に配置された「公園群」としてトータルの公園・緑地の配置計画の好事例について取り上げる。

上記のポイントを踏まえ、以下の項目に着目した規範事例を選定した。

- 1) 歴史資源を保全・活用した公園
- 2) 空間・施設を転用した公園
- 3) 新たな風景的価値を創出した公園
- 4) 臨水部（川・港）における公園
- 5) 公園群（ネットワーク）
- 6) 市民参加によりつくられた公園

## (2) 事例選定の考え方

公園部会における規範事例選定の議論の焦点は、日比谷公園を選定するか否かであった。明治36年に開園した日比谷公園は、明治の市区改正期に生まれた日本最初の本格的近代公園である。その歴史的な位置づけ、古典的造園デザインとしての価値、日比谷公会堂や松本楼など都市施設を備えた公共性の高さ、そして何よりも日比谷一帯の官庁・オフィス街に貴重な緑とオープンスペースを提供し続けている公園本来の役割。日比谷公園こそ、正統派都市公園の代表選手であることはまちがいない。

しかし議論となったのは、これが将来の土木デザインの規範としてふさわしいか、ということであった。土木が扱う都市や地域という視点にたつと、今後求められる公園とは、四周を街路で閉じられ、内部に園路、樹木と花、パーゴラ、池と噴水、ベンチ、遊具、広場やグラウンドなどをとりそろえたステレオタイプではない。これまで全国に造られ続けてきた数多くの地区公園や近隣公園の類いは、多かれ少なかれ、日比谷公園の変形ミニチュア版であると言ってよい。これからの土木デザインの規範となる公園は、近代以降に確立されたステレオタイプの空間ではなく、都市や地域の風景の核としての空間であり、周囲に対してより開かれた空間である。自己完結したレクリエーション空間としてではなく、まちづくりや風景づくりのよりどころとなり得る場所でなければならない。

以上のように考えて、あえて日比谷公園を外した。そして、必ずしも都市計画法で規定される都市計画施設としての公園にこだわることなく、これからのまちづくりや風景づくりにつながるような発想やコンセプト、手法、デザイン体制、運営手法などを含むと考えられる事例を、新旧にかかわらず多様にとりそろえる、という方針をたて、最終的に以下の11事例を選定した。

西都原古墳群は、国の特別史跡である古墳群を中核とする史跡公園であるが、周囲の農地と自然に連続し、むしろ無数の古墳がとけこんだ田園公園というべき空間である。周囲の開発規制、農業振興などの景観保全策があわせて用いられていることも重要である。

日比谷公園を外した一方で、明治の太政官制公園を出自とする上野公園を選んだ。上野の山は近世の名所であったが、その変化に富んだ地形や水をベースに、寺社、美術館や博物館などの文化施設、大学などが立地し、総合すれば文化公園都市ともいうべき都市空間を形成している点に、規範性を見いだせる。

砧公園は、戦前の大都市圏計画としての東京緑地計画の名残りである。地域計画的観点からの広域的公園配置論は今後とも必要な視点、と考えるがゆえの選定である。あわせて掲載した水元公園も東京緑地計画を出自とする。両公園とも、水系をとりこみ、生かしている点に注意してほしい。

アルテピアッツァ美唄は、彫刻家安田侃氏の彫刻を屋内外に展示する美術空間である。廃校となった小学校を改修して展示室に利用し、周囲の自然と一体となった質の高いランドスケープデザインを敷地全体に展開し、市民を中心としたNPOが運営管理にあたっていることなど、今後の新しい公園のありかたを考えるうえで示唆を得る点が多い。

古河総合公園は、戦後干拓によって水田となり、その後打ち捨てられて荒廃していた御所沼を復元し、その御所沼を核にして地域の原風景を再生した公園である。水系を軸にした原風景再生という方法論もさることながら、公園の運営管理にあたってパークマスターという独自の制度を用いていることも大きな特徴である。

モエレ沼公園は、旧豊平川の河跡湖に接する廃棄物処理場の跡地に、公共事業の発生残土を利用しながら築いた公園である。全体は彫刻家イサ

ム・ノグチにより構想され、大地の彫刻的造形ともいべき雄大なデザインが展開されている。デザインコンセプトの独自性はもちろん、廃棄物処理の跡地を公園化するという事業の経緯もユニークである。

長崎水辺の森公園は、おそらく日本では横浜の山下公園以来の本格的な臨港公園であり、その完成によって、斜面地にひろがる長崎市街から港周辺をめぐる歩行系ネットワークが創出され、まさに格段の広がりをもたらされた。都市計画、造園、土木の専門家が計画から竣工まで一貫してプロジェクトを見守る体制をとり、空間全体が総合的にコーディネートされている点も特記すべきであろう。

復興小公園は、空間のデザインという点では先述したステレオタイプの代表格ではある。しかし、小学校とセットで小公園を配置し、地域の教育、コミュニティ、防災などの拠点にするという考え方は計画論としてユニークであり、再評価に値するアイデアである。

多摩・港北ニュータウンは、緑地をネットワークとして配置することによって地区を構造化するとともに、歩行動線とレクリエーション空間を生み出している点で、いまや広域的公園計画としての古典的価値を有している。とくに港北ニュータウンにおいては、地形水系と地区構造を密に連動させ、かつ既存の樹林を積極的に保全しネットワークに組み込むことによって、多摩よりも完成度の高い緑地のネットワークが実現している。

勝山の大清水空間は、公園ではなく路地・広場である。しかし、もともと町全体にあたりまえのように見られたものの、現在暗渠化している水路を街路や広場に復活させ、水をよりどころにしてオープンスペースや散歩道を展開していくという手法は、今後のまちづくりにおいて有益な示唆を与えるところが多い。

最後の児ノ口公園は、運動施設と遊具を備えていた典型的な地区公園を、

近自然型工法を用いた河川の復活を基軸にして「野生化」してしまった公園である。実現に際しての、市民と事業主体である市との協同関係を含めて、次代の公園のあり方やつくり方を考えさせられる事例である。

なお、山下公園と隅田公園がそれぞれ港湾編と河川編の規範事例として選定されている。機能優先で整備しがちな水辺空間を公園として積極的に市民に開放することが、港湾、河川に関わるプランニングとして優れたものであるとの位置づけであろう。無論、公園の規範としても参照すべき事例であるので、こちらもご覧いただきたい。

土木デザイン集成編集小委員会 街路・公園部会長  
東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻  
中井 祐

【公園分野】規範事例一覧

区分		事例対象	テーマ（副題）	特 徴
歴史資源の 保全・活用	歴史的景観の 保全・継承	西都原古墳群 (宮崎県)	古墳群と一体的に自然・田園景観 を取込んだ空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大地に点在する古墳群と周辺の自然環境や農地、作り込みすぎないように配慮された公園施設が一体となり、優れた景観を形成</li> <li>・古墳群の特徴的な風景を活かすため、古墳の間を縫うように園路が配置され、草地の管理にも特に配慮がなされている</li> </ul>
	近世名所の 近代化・文化化	上野公園 (東京都)	近世の名所を踏襲して文化施設 を集約した近代都市公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近世から続く「名所」を引き継ぎ、近代化施策により都市公園として、現在では、文化・芸術の集合地域として発展を遂げている</li> <li>・都市の中に残された台地と水辺、それらを取り巻く豊富な緑、様々な文化施設、休み処により、多くの人でにぎわう名所となっている</li> </ul>
空地転用 ・ 施設転用	計画により担保された 空間の転用	砧公園 (東京都)	グリーンベルト構想により位置 づけた自然地形を活かした緑地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京緑地計画」における環状緑地帯の一角を担うことを目的に用地が担保され、防空空地や農用地、ゴルフ場を経て公園として整備</li> <li>・残存する地形、既存の樹木等を活かし、心地よい広がりを持った空間を形成</li> </ul>
	施設の転用	アルテピアッツァ美唄 (北海道)	廃校を活用して創造した芸術空 間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻家安田侃氏の監修により、廃校となった旧校舎、体育館などを活用し、自然や地域の歴史と彫刻作品の融合した空間として再生</li> <li>・周辺の山里の美しい風景と園内のランドデザイン、水景施設、安田氏の彫刻、旧校舎等が見事に調和</li> </ul>
風景的価値 の創出	歴史的環境としての 原風景の再生	古河総合公園 (茨城県)	原風景の再生と新たな名所づく りを目指した交流空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後の土地改良事業により農地化された御所沼の再生と、周辺の風景との連続性を意識</li> <li>・管理運営の専門家であるパークマスターの配置や、「公園づくり円卓会議」など管理運営手法に工夫</li> </ul>
	彫刻的な アースワーク	モエレ沼公園 (北海道)	広大な敷地を活かして大胆に造 形した大地のアート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ処分場の跡地において、彫刻家イサム・ノグチによるマスタープランに基づき「全体をひとつの彫刻」とみなして整備された公園</li> <li>・造成のデザインを彫刻的に扱い、単純な形にデフォルメされた施設をダイナミックに公園全体に配置、新たなランドスケープが創出</li> </ul>
水辺	歴史環境を一体化した 港湾空間	長崎水辺の森公園 (長崎県)	まちと港をネットワークさせた 水辺の空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形的制約から広い空間の乏しかった臨港部に、貴重な水辺のオープンスペースを創出</li> <li>・海を望む「水の庭園」や運河沿いの「水辺のプロムナード」における水際の処理、運河を跨ぐ橋梁群、ゾーンに応じた照明デザイン</li> </ul>
	震災復興	隅田公園（東京都）	日本初の本格的な河岸公園	（河川編に掲載）
		山下公園（神奈川県）	港と市街地を緩やかにつなぐ臨 海公園	（港湾編に掲載）
ネットワーク	コミュニティ プランニング	震災復興小公園 (東京都)	学校と公園を組み合わせ配置 した防災コミュニティ空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不燃化された校舎と避難所ともなる小公園の一体的な整備</li> <li>・計画的な配置により地域コミュニティの形成を図った</li> <li>・小公園として52ヶ所が整備され、当時の面影を残し現存するのは元町公園のみである</li> </ul>
	オープンスペースの ネットワーク化	多摩ニュータウン(東京都) 港北ニュータウン(神奈川県)	街づくりのシステムとして計 画・実践されたオープンスペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な住環境の形成を目的とした、地域環境に配慮したオープンスペースの計画と実践</li> </ul>
	ポケットパークによる 地域の履歴の復活	大清水空間 (福井県)	地域の歴史性をデザインし、ネッ トワークさせた小空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧市街の歴史的シンボルともいえる大清水源泉部、そこから流れるせせらぎ、街角の駐車場用地を活用した市民広場、交錯する細街路網、これらを一体的に整備することで勝山再生の基盤とした。</li> </ul>
市民参加	市民参加の公園づくり	児ノ口公園 (愛知県)	市民参加により原風景を復元し、 管理・運営している多自然型公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗渠化された河川を再生し、都市に水と緑を取り戻すことを目的として大改修が行われた近自然型の公園</li> <li>・お年寄りを中心に工事現場での市民参加が自然発生的にはじまり、住民主体の管理組織が誕生し、日常管理、催し物の運営へと発展</li> </ul>